

平成22年度学校自己評価表(2)

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の能力と個性の伸張をはかりながら、基礎学力の育成と基本的生活習慣の確立に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の 重点目標	1 基礎的な学力の保障と進路実現 2 基本的生活習慣の確立 3 地域貢献活動の推進 4 国際交流活動および国際理解教育の充実
-------------------	---	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (2月)			
評価項目		評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価 改善方策	
3 地域貢献活動の推進	生徒会活動	○部活動を通じて規範意識や社会を生き抜く力を育成する。 ○部活動を通じて、地域へ貢献する。	○平成22年4月現在、部活動の加入率は約92.7%で、多くの生徒が熱心に活動している。 ○地域に出向いて、自主的な活動を行ったり、ボランティア活動に関わる部活動が増えている。	○部活動の加入率を維持する。 ○部活動をより活性化させる。 ○活動を定着させ、様々な活動に参加する生徒を増やす。	○生徒部掲示板等を利用して、生徒会行事等の情報を積極的に流す。 ○部活動を通して基本的生活習慣の確立を目指す。 ○部活充実費等により施設設備の充実を図る。 ○ホームページ・学校だより・生徒部掲示板を利用して、各部の活動を紹介する。	○前期は活動が多く情報を積極的に流すことができたが、後期は十分にできていない。 ○あいさつ運動が定着し、生徒からのあいさつが増えた。 ○部活充実費による設備充実を図ることができた。 ○各部の活動紹介を随時行った。	B	○執行部育成をはかり、執行部を中心に情報発信ができるようにする。
	環境	○PTA活動と生徒会活動をタイアップさせて地域美化をすすめる。 ○学校行事を通じて、環境保全に対する意識を高める。	○PTAと生徒会が一体となって通学路清掃等の清掃活動を行い、地域へ貢献している。 ○TEASの取り組みが定着し、環境に対する意識が変わってきた。	○生徒の地元への愛着が深まるような活動を組織し、参加人数を増やす。 ○環境委員などの研修を通じて、生徒の中に環境リーダーを育成する。 ○前年度電力使用量に対して5%削減、前年度上水道使用量に対して5%削減、前年度ゴミ廃棄量に対して、5%削減を目指す。	○通学路に6月はPTA・生徒会が中心になって除草とコスモスの種まきを行い、10月は生徒中心で菜種を植える。 ○米子市の一斉清掃日と連動するなど、引き続き地区公民館活動として取り組む。 ○環境委員などに対して、各種研修の機会を設ける。 ○使用していない教室の消灯など、学校が一体となって省エネルギー活動に取り組む。	○通学路清掃は7月と10月に行った。7月はPTA・生徒会中心で65名の参加があった。10月は全校生徒が行った。 ○生徒とPTAとが連携して地域に貢献できた。 ○環境委員等が鳥取環境大学へ行き、講義および見学研修を受けた。また、環境教育LHR・講演会では環境委員が中心になり司会進行を務めた。 ○教室の消灯チェックを行った。2月末現在、前年度比で電力使用量は2.3%減、上水道使用量は給水管漏水により5.6%増、可燃ゴミ廃棄量は体育館工事の関係で14.7%増であった。	B	○引き続きPTAと生徒が一体となって実施し、参加人数をさらに増やす。 ○米子市の一斉清掃日と連動するなど、引き続き地区公民館活動として取り組む。 ○環境委員などに対し引き続き研修等の機会を設け、環境リーダーとしての自覚を高める。 ○学校全体で節電・節水・ゴミ減量の意識を高め、取り組みを強化する。
	人権	○人権教育全体計画に則り、学校生活全体を通じて人権感覚をはぐくむ。	○人権教育LHRの事前の話し合いの時間が十分取れていない。 ○様々な課題を持った生徒がいる。	○学校生活全体を通じて人権教育的視点を活かす。 ○より多くの職員が研修を活用できるよう工夫する。	○人権教育LHRのための研修の時間を保証する ○様々な課題を抱える生徒へ対応できるよう職員間の連携を取り、職員研修もすすめる。	○様々な課題を持った生徒と関わりながら学校生活全体を通じて対応している。 ○相談部と共同して職員研修を実施した。	B	○従来の人権LHRに限らず、3年間を通じてケータイ等の問題に取り組む ○引き続き職員間の連携を取り職員研修・生徒向け講演会を実施する。
	情報発信	○重要な連絡が保護者に確実に届くようにする。	○重要な配布物はメールサービスにて、配布した旨を保護者に連絡している。	○メールサービスへの2年次生の登録率の低下を防ぐ。	○メールサービスの年度移行の際に、現在の登録者を削除せずに、次学年への登録変更を促す。	○重要な配布物や休校の連絡をメールサービスを利用して迅速に連絡することができた。 ○登録者を削除しないで学年変更できたので、2年次生の登録率を高く保つことができた。	A	
4 国際交流活動および国際理解教育の充実	国際交流	○国際交流に、PTAと共に学校をあげて取り組む。	○姉妹校との交流が、新型インフルエンザ流行の影響で21年度は中断した。	○昨年度でできなかった姉妹校との交流を復活させ、国際交流の機会とそれに参画する生徒の数を増やす。	○アメリカ・韓国の姉妹校との交流を再開するため連携を密にする。	アメリカ・韓国の姉妹校と積極的に交流できた。PTAや愛校会のメンバーも2度に渡って渡韓し交流を深め、釜山デザイン高校来日時は積極的に日本文化の紹介に努めた。	A	来年度は最後の研修旅行である。総決算の回にふさわしいものにする。今後は釜山デザイン高校とは短期留学を拡充して交流を深めていく。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:まだ不十分 D:目標・方策の見直し
 [80%以上] [60%以上] [40%以上] [40%未満]